

令和4年度（2022年度）学校評価報告書

北海道弟子屈高等学校長 加 藤 誠

次のとおり令和4年度（2022年度）の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

- (1) 郷土の自然・文化・歴史への理解を深め、たくましく生きる力、豊かな心を育てる。
- (2) 生徒一人一人を理解し、主体性を生かし、積極的に学校生活を送る態度を育てる
- (3) 基本的生活習慣を確立し、自ら判断し、行動する態度と能力を育てる。
- (4) キャリア教育の充実を図り、適性や進路に対する理解を深め、自ら学ぶ意欲を育てる。

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学習指導	・校内で研究授業を行い、授業改善は進んでいる。 ・授業外学習時間は増加。グーグルクラスルームを活用している。 ・3観点の評価とし、内容を見直して年度当初に改善を行った。 ・教育課程委員会を中心に、校内研修などで全教員で取り組んだ。	・今年度の取組や自己評価、改善に向けた取組についておおむね適切である。 ・生徒や家庭の学習目標設定に差があるため、対応が難しい。 ・授業外学習時間の増加、資格取得については大学や社会に出た後に大切なので、高校の時に意義を理解させ、取り組ませる必要がある。
改善方策	・新学習指導要領に合わせ、今後も継続して授業改善に努めていく。 ・シラバス活用の仕方について工夫し、年度初めに研修会を開き、活用を促していく。 ・授業外学習時間を増やす工夫の一つとして、グーグルクラスルームを活用する。 ・生徒の学力向上へ向けて、公設塾と教材検討等の連携を図る。	
生徒指導	・生徒指導に関する保護者への情報提供は丁寧に行った。 ・町の生徒指導連携協議会と連携し、校内のきまりについての情報交換を行った。 ・外部での交流会を通じて、他校の実態を知り、本校に取り入れられるものを検討中である。 ・全校面談を実施し、全教職員による生徒の実態把握に努めている。 ・いじめの対応は迅速に処理し、未然防止に向け注意喚起を行った。	・今年度の取組や自己評価、改善に向けた取組についておおむね適切である。 ・生徒の地域活動への参加を継続して欲しい。 ・コロナ禍が収束した後を見据えて、ネットワークを活かして学校として有効な対策を考えて行く必要がある。
改善方策	・生徒指導案件発生時の報連相の徹底。速やかな対応に努める。 ・外部の関係団体の交流会や研究会を通じて視野を広げ、本校の特徴を外から見て客観的に把握していく。 ・複数の教員の目による対処方針や指導計画のチェックを明確にする。 ・学年と教育相談委員会との連携を密にし、生徒理解に努める。 ・いじめ防止基本方針に基づいて迅速に対応し、未然予防を徹底する。	
進路指導	・進路決定状況については、国公立大学や地元の就職先で新たな実績を残した。 ・模擬面接指導等の進路実現に向けた取組はスムーズに行われていたが、分掌や3学年での取組や生徒の状況が全体へ周知しきれていない場面があった。 ・地域の企業や、各種上級学校の協力の下、多くの体験活動や講演を実施し、職業観・勤労観を高めることができた。	・今年度の取組や自己評価、改善に向けた取組についておおむね適切である。 ・1～2年次での新しい就労体験が必要である。 ・自己の将来について考えることについては、常に意識してほしい。
改善方策	・今後も生徒の実態にあわせて効果的な指導をしていく。 ・生徒情報の共有を徹底するとともに、学年の各種進路行事の詳細な引き継ぎなどを行う。 ・次年度以降は、進路行事の精選も含めて検討していく必要がある。	

健康安全指導	・良好である。	・今年度の取組や自己評価、改善に向けた取組についておおむね適切である。 ・生徒の犯罪がないのは良い。
改善方策	・今後も継続的に効果的な情報を発信し、保健衛生の意識を高めていく。 ・防犯、防災の必要性を体験活動を重視した取り組みを活用して高めていく。	
働き方改革	・働き方改革に係る校内研修会を実施し、教職員個々の業務改善に向けた取組への指針となった。 ・業務の洗い出しの重要性を教職員へ指導しているが、対応できていない教職員が少数見られる。	・今年度の取組や自己評価、改善に向けた取組についておおむね適切である。 ・生徒との対話の時間確保のためにも、学校全体で取り組んで欲しい。
改善方策	・教職員定数が減少し、学校として実施できることを明確にし、一層の業務の見直しを図る。 ・長期休業中も含め、継続して定時退勤の完全実施を継続するよう努める。	
信頼される学校づくり	・保護者との電話連絡、学校・学年通信、学校HPなどを通じて、機会あるごとに情報を発信している。 ・小中学校との連携について、検定試験や教科により連携を図っているが、学校全体としての連携が不足している。 ・地域との連携のもと教育活動を実践することができている。	・今年度の取組や自己評価、改善に向けた取組についておおむね適切である。 ・ホームページの活用を研究して欲しい。 ・先生方一人ひとりが発信者として意識を持っていく必要があります。
改善方策	・ホームページや安心メール等の情報発信ツールを活用し、重要な情報を適時に発信できるように努める。 ・出前講座など、高校の教育力を小中学校に発信し、連携して地域の子どもたちの育成に努める。 ・今後も継続して、地域とともに教育活動を実践していく。	
組織運営	・校内研修をとoshi、育成する生徒像について共有を図ることができた。 ・課題把握と情報共有の意識が高まりつつある。	・今年度の取組や自己評価、改善に向けた取組についてはおおむね適切である。 ・少人数だからこそ、生徒一人ひとりに目を向け、全教員が生徒と向き合い、情報共有することが大切である。
改善方策	・校内研修の一層の充実を図り、組織運営に生かす。 ・日常的な情報共有を図り、学校運営への全教職員による参画意識を高める。	
教職員の資質向上	・服務規律の遵守は良好だが、メタ認知の低い教職員も数名いる。 ・各教科において、授業力の向上へ向け、授業改善に取り組んでいるが、学習指導・生徒指導に課題のある教員も数名いる。 ・校外研修等に積極的に参加し、生徒へ還元している。	・今年度の取組や自己評価、改善に向けた取組についておおむね適切である。
改善方策	・今後も機会あるごとに服務規律の遵守について啓発していく。 ・課題把握・共有をさらに図り、分掌・学年と連携し早期解決に向け取り組む。 ・先進校の授業を参観するなど、情報収集を図るとともに、教科間連携を推進する。 ・成果を教員間で共有し、教員の生徒への指導力向上に努める。	
公表方法	・学校ホームページ ・弟高通信（町内全戸へ配布）	

3 添付資料

- (1) 令和4年度（2022年度）学校自己評価表
- (2) 令和4年度（2022年度）学校評価（学校関係者評価書）